

# 瑜伽行唯識の思想と実践

「声聞地研究会」では、瑜伽行派文献とそれに関わる領域について、最新の研究を議論するワークショップを開催いたします。「瑜伽行唯識の思想と実践」をテーマに、先生方の現在の研究をお話いただきます。どうぞお気軽にご参加ください。

日時 **2026年2月9日（月）**

会場 大正大学綜合佛教研究所（3号館4階）

申込み 不要（どなたでも参加可能）

Part 1	佐久間秀範先生	13:00～14:40
「玄奘がインドの唯識思想を中国の唯識思想に変貌させた！？！」		
Break		14:40～15:00
Part 2	山部能宜先生	15:00～16:40
「 <i>Saundarananda</i> に見られる一水四見喻の先駆形態」		

1

## 佐久間秀範先生 「玄奘がインドの唯識思想を中国の唯識思想に変貌させた！？」

「ん！インドの唯識思想と中国の唯識思想とで、どこかが違う」と私は感じた。研究を進めるうちに、インドの唯識思想が中国・日本の唯識法相教学に変貌する転換点を握るのが他ならぬ玄奘三蔵法師だと気づいた。その経緯を、玄奘の翻訳文献の中の特徴的な三つの文献を時系列的に追いながら、皆さんと考えてみようと思う。

【講師紹介】筑波大学名誉教授。ハンブルグ大学にて D.Phil、東京大学にて博士号を取得。インド瑜伽行唯識の思想ないしヨーガ修行を専門とし、護法や安慧等の論師から仏教論理学までの系譜を探究している。主著に『修行者達の唯識思想』（春秋社、2023 年）、『仮地經論—戒賢と現状との対照テキスト』（大蔵出版、2025 年）がある。

2

## 山部能宜先生 「*Saundarananda*に見られる一水四見喻の先駆形態」

*Saundarananda* 13.52 に見られる、同一の形象が人によってさまざまに認識されるという見解は、後世の瑜伽行派における「一水四見の譬え」を想起させるものである。類似した記述は『大智度論』や『大毘婆沙論』などにも見られ、広く共有されていた思想であったことが窺える。このイメージの広がりを探って、唯識思想の背景の一つを考察してみたい。

【講師紹介】早稲田大学文学学術院教授。イエール大学にて Ph.D 取得。インド瑜伽行唯識の思想および、インド・中国・中央アジアにおける禪觀実践の展開を専門とする。文献研究に加え、石窟壁画を始めとする美術資料を用いた独特の研究で知られている。現在、特に注目している課題のひとつに、仏教の実践における身心の架け橋としてのアーラヤ識の考察がある。

お問い合わせ：声聞地研究会(阿部貴子) ta\_abe@mail.tais.ac.jp